

11-4 昼夜間人口比率

<都道府県別>

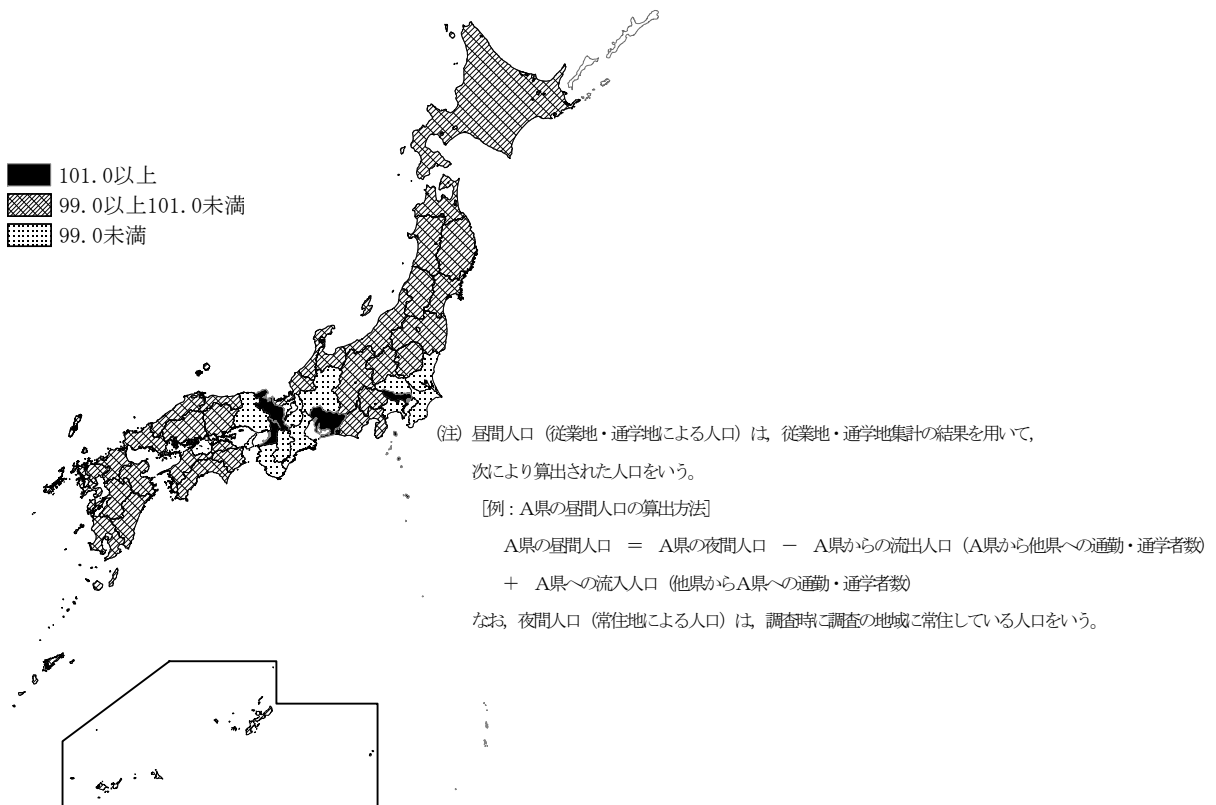
昼夜間人口比率は、東京都が118.4と最も高く、埼玉県が88.6と最も低い

都道府県別に昼間人口^{iv}をみると、東京都が1557万6千人と最も多く、次いで、大阪府が928万1千人、神奈川県が825万4千人などとなっている。

昼夜間人口比率（夜間人口100人当たりの昼間人口）をみると、東京都が118.4と最も高く、次いで、大阪府が104.7、愛知県が101.5となっており、これら三大都市圏の中心部で昼間人口が夜間人口を上回っている。一方、埼玉県が88.6と最も低く、次いで、千葉県が89.5、奈良県が89.9などとなっており、上記都市圏の周辺部を構成する県で昼間人口が夜間人口を下回っている。

（図11-9、表11-9）

図11-9 昼夜間人口比率—都道府県（平成22年）



^{iv} 都市の周囲に常住する就業者・通学者は特別区部など都市中心部へ通勤・通学する者が多いため、昼間の人口構成と夜間の人口構成では大きな差異が生じる。国勢調査では、就業者の従業地、通学者の通学地別人口と常住地の人口を基に昼間人口を算出している。ここでいう昼間人口とは、常住地からの通勤・通学という日々の定常的な移動人口を加減して算出した人口である。したがって、旅行、買物、娯楽などのための非定常的な移動は考慮しておらず、また、幼稚園や保育所に日々定常的に通っている幼児やデイサービスなどに通所する高齢者についても考慮していない。

表11-9 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率—都道府県(平成17年、22年)

都道府県	昼間人口(千人)				夜間人口(千人)		昼夜間人口比率	
	実数(千人)		構成比(%)		22年	17年	22年	17年
	平成22年	17年	22年	17年				
全	128,057	127,286	100.0	100.0	128,057	127,286	100.0	100.0
北海道	5,504	5,619	4.3	4.4	5,506	5,621	100.0	100.0
青森県	1,374	1,435	1.1	1.1	1,373	1,436	100.0	99.9
岩手県	1,326	1,377	1.0	1.1	1,330	1,381	99.7	99.7
宮城県	2,352	2,357	1.8	1.9	2,348	2,354	100.2	100.1
秋田県	1,085	1,144	0.8	0.9	1,086	1,145	99.9	99.9
山形県	1,167	1,215	0.9	1.0	1,169	1,216	99.8	99.9
福島県	2,021	2,082	1.6	1.6	2,029	2,090	99.6	99.6
茨城県	2,887	2,886	2.3	2.3	2,970	2,973	97.2	97.0
栃木県	1,990	1,998	1.6	1.6	2,008	2,013	99.1	99.3
群馬県	2,005	2,021	1.6	1.6	2,008	2,023	99.9	99.9
埼玉県	6,373	6,159	5.0	4.8	7,195	7,036	88.6	87.5
千葉県	5,560	5,340	4.3	4.2	6,216	6,034	89.5	88.5
東京都	15,576	14,978	12.2	11.8	13,159	12,416	118.4	120.6
神奈川県	8,254	7,905	6.4	6.2	9,048	8,753	91.2	90.3
新潟県	2,375	2,428	1.9	1.9	2,374	2,426	100.0	100.1
富山県	1,091	1,108	0.9	0.9	1,093	1,111	99.8	99.7
石川県	1,172	1,177	0.9	0.9	1,170	1,173	100.2	100.3
福井県	807	821	0.6	0.6	806	820	100.1	100.2
山梨県	855	876	0.7	0.7	863	884	99.0	99.1
長野県	2,149	2,193	1.7	1.7	2,152	2,195	99.9	99.9
岐阜県	1,998	2,019	1.6	1.6	2,081	2,106	96.0	95.9
静岡県	3,760	3,783	2.9	3.0	3,765	3,787	99.9	99.9
愛知県	7,521	7,341	5.9	5.8	7,411	7,219	101.5	101.7
三重県	1,820	1,824	1.4	1.4	1,855	1,865	98.1	97.8
滋賀県	1,363	1,327	1.1	1.0	1,411	1,379	96.6	96.2
京都府	2,668	2,651	2.1	2.1	2,636	2,631	101.2	100.8
大阪府	9,281	9,241	7.2	7.3	8,865	8,759	104.7	105.5
兵庫県	5,348	5,299	4.2	4.2	5,588	5,570	95.7	95.1
奈良県	1,260	1,259	1.0	1.0	1,401	1,419	89.9	88.7
和歌山県	983	1,012	0.8	0.8	1,002	1,035	98.1	97.8
鳥取県	589	607	0.5	0.5	589	606	100.0	100.2
島根県	718	741	0.6	0.6	717	741	100.0	99.9
岡山県	1,943	1,949	1.5	1.5	1,945	1,950	99.9	99.9
広島県	2,869	2,872	2.2	2.3	2,861	2,863	100.3	100.3
山口県	1,444	1,482	1.1	1.2	1,451	1,491	99.5	99.4
徳島県	783	808	0.6	0.6	785	810	99.7	99.7
香川県	998	1,013	0.8	0.8	996	1,011	100.2	100.2
愛媛県	1,433	1,469	1.1	1.2	1,431	1,467	100.1	100.1
高知県	763	795	0.6	0.6	764	796	99.9	99.9
福岡県	5,078	5,030	4.0	4.0	5,072	5,026	100.1	100.1
佐賀県	852	866	0.7	0.7	850	866	100.2	100.0
長崎県	1,423	1,474	1.1	1.2	1,427	1,478	99.8	99.7
熊本県	1,810	1,833	1.4	1.4	1,817	1,840	99.6	99.6
大分県	1,197	1,207	0.9	0.9	1,197	1,206	100.0	100.1
宮崎県	1,136	1,152	0.9	0.9	1,135	1,152	100.0	100.0
鹿児島県	1,704	1,752	1.3	1.4	1,706	1,753	99.9	100.0
沖縄県	1,392	1,361	1.1	1.1	1,393	1,361	100.0	100.0

(注) 平成17年は年齢「不詳」を除く。

県庁所在市及び20大都市でみると、大阪市の昼夜間人口比率が最も高い

県庁所在市及び20大都市の昼間人口をみると、東京都特別区部が1171万2千人と最も多く、次いで大阪府大阪市（353万9千人）、神奈川県横浜市（337万5千人）、愛知県名古屋市（256万9千人）などとなっている。

昼夜間人口比率をみると、大阪府大阪市が132.8と最も高く、次いで東京都特別区部（130.9）、山梨県甲府市（113.9）などとなっており、これらを含む43市で100を上回っている。これに対して、神奈川県相模原市が87.9と最も低く、次いで神奈川県川崎市（89.5）、神奈川県横浜市（91.5）などとなっており、これらを含む9市で100を下回っている。（表11-10）

表11-10 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率—県庁所在市、20大都市(平成22年)

都 市	昼間人口 (千人)	夜間人口 (千人)	昼夜間 人口比率	都 市	昼間人口 (千人)	夜間人口 (千人)	昼夜間 人口比率
北海道 札幌市	1,926	1,914	100.6	三重県 津市	294	286	102.9
青森県 青森市	305	300	101.7	滋賀県 大津市	311	338	92.1
岩手県 盛岡市	317	298	106.4	京都府 京都市	1,599	1,474	108.5
宮城県 仙台市	1,122	1,046	107.3	大阪府 大阪市	3,539	2,665	132.8
秋田県 秋田市	339	324	104.6	大阪府 堺市	795	842	94.4
山形県 山形市	273	254	107.5	兵庫県 神戸市	1,584	1,544	102.6
福島県 福島市	303	293	103.5	奈良県 奈良市	347	367	94.6
茨城県 水戸市	303	269	112.8	和歌山県 和歌山市	387	370	104.4
栃木県 宇都宮市	535	512	104.6	鳥取県 鳥取市	205	197	103.7
群馬県 前橋市	356	340	104.5	島根県 松江市	204	194	104.8
埼玉県 さいたま市	1,134	1,222	92.8	岡山県 岡山市	739	710	104.2
千葉県 千葉市	938	962	97.5	広島県 広島市	1,198	1,174	102.1
東京都 特別区部	11,712	8,946	130.9	山口県 山口市	199	197	101.1
神奈川県 横浜市	3,375	3,689	91.5	徳島県 徳島市	290	265	109.6
神奈川県 川崎市	1,276	1,426	89.5	香川県 高松市	439	419	104.5
神奈川県 相模原市	630	718	87.9	愛媛県 松山市	524	517	101.3
新潟県 新潟市	826	812	101.8	高知県 高知市	353	343	102.9
富山県 富山市	449	422	106.3	福岡県 北九州市	1,004	977	102.7
石川県 金沢市	499	462	108.0	福岡県 福岡市	1,638	1,464	111.9
福井県 福井市	294	267	110.4	佐賀県 佐賀市	255	238	107.4
山梨県 甲府市	227	199	113.9	長崎県 長崎市	458	444	103.2
長野県 長野市	398	382	104.2	熊本県 熊本市	757	734	103.1
岐阜県 岐阜市	429	413	103.8	大分県 大分市	484	474	102.2
静岡県 静岡市	740	716	103.3	宮崎県 宮崎市	409	401	102.1
静岡県 浜松市	799	801	99.7	鹿児島県 鹿児島市	615	606	101.5
愛知県 名古屋市	2,569	2,264	113.5	沖縄県 那覇市	345	316	109.1

< 3大都市別 >

東京都特別区部の昼夜間人口比率の最高は千代田区の1738.8、最低は練馬区の82.1

東京都特別区部について区別に昼間人口をみると、港区が88万6千人と最も多く、次いで、千代田区が81万9千人、世田谷区が81万3千人などとなっている。

昼夜間人口比率をみると、千代田区が1738.8と最も高く、次いで、中央区が493.6、港区が432.0などとなっており、これらを含む12区が100を上回っている。一方、練馬区が82.1と最も低く、次いで、江戸川区が84.1、葛飾区が85.0などとなっており、これらを含む11区が100を下回っている。

(図11-10, 図11-11, 表11-11)

図11-10 昼夜間人口比率—東京都特別区部 (平成22年)

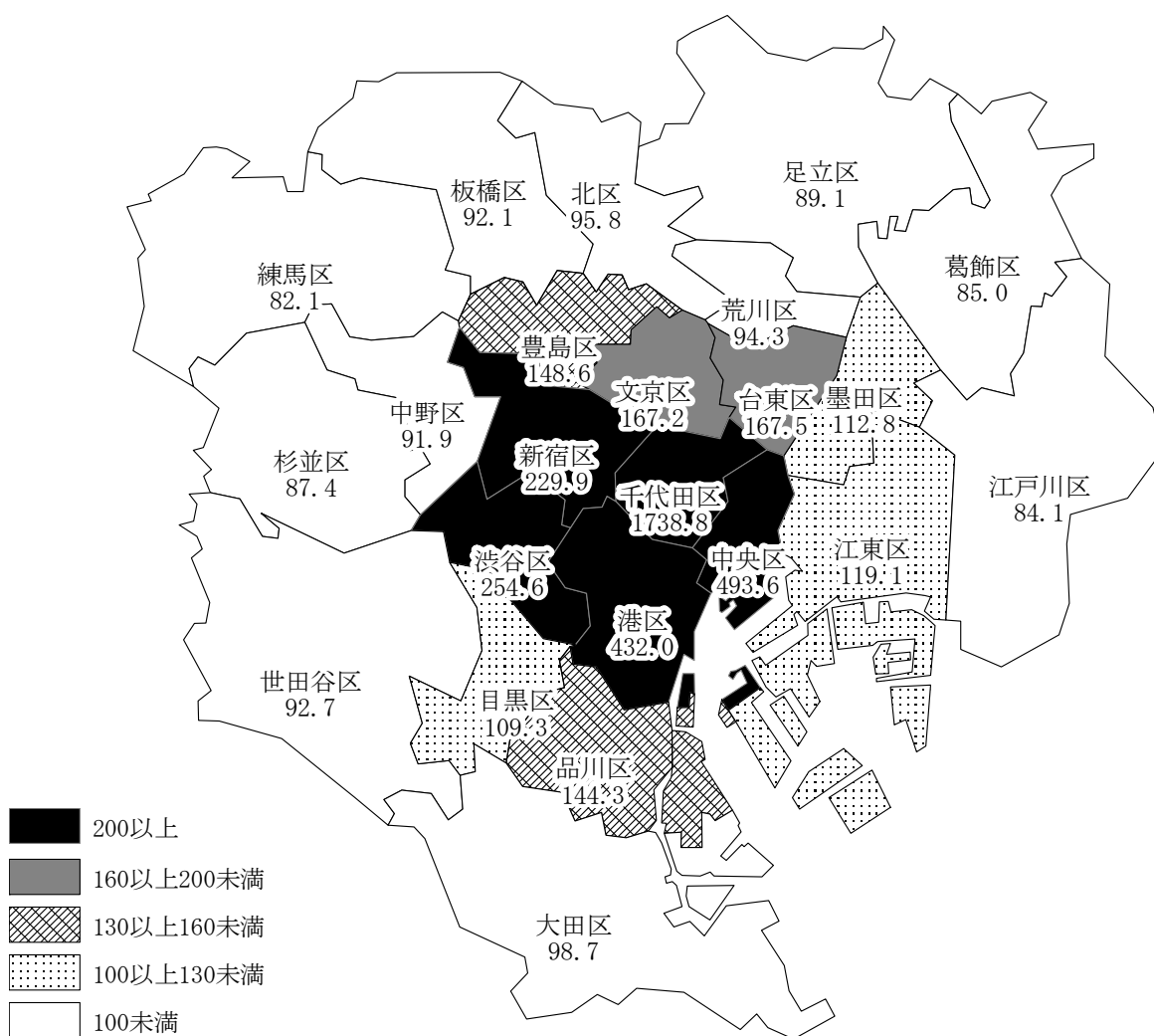


図 11-11 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率—東京都特別区部（平成 22 年）

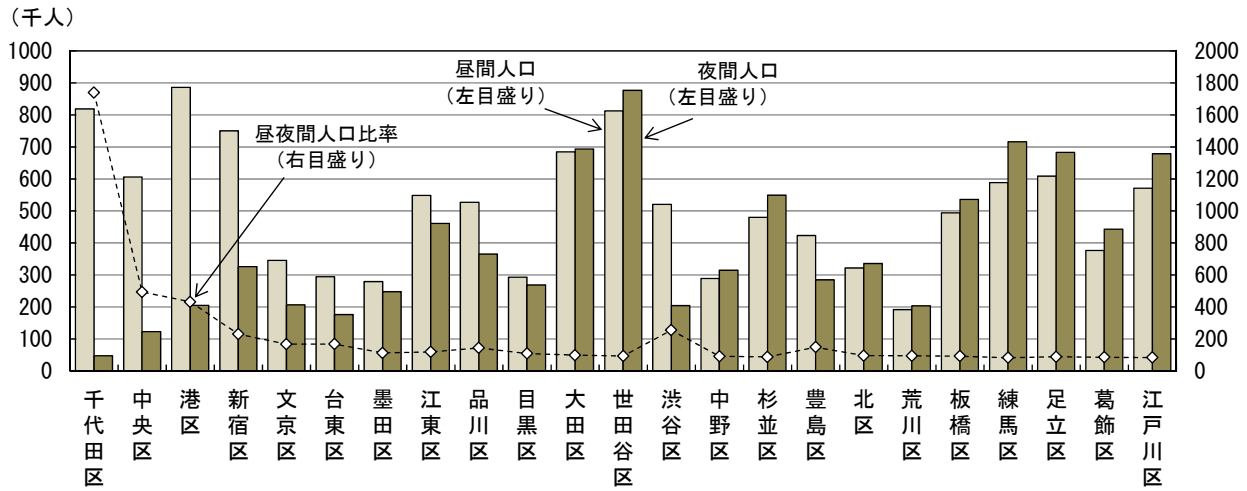


表 11-11 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率—東京都特別区部（平成 17 年、22 年）

区	昼間人口（千人）		夜間人口（千人）		昼夜間人口比率	
	平成22年	17年	22年	17年	22年	17年
特別区部	11,712	11,285	8,946	8,352	130.9	135.1
千代田区	819	853	47	42	1738.8	2047.3
中央区	606	648	123	98	493.6	659.5
港区	886	909	205	186	432.0	489.4
新宿区	750	770	326	304	229.9	253.5
文京区	345	336	207	190	167.2	177.4
台東区	295	304	176	164	167.5	185.6
墨田区	279	263	248	231	112.8	113.6
江東区	549	491	461	421	119.1	116.6
品川区	527	505	365	345	144.3	146.4
目黒区	293	271	268	249	109.3	109.1
大田区	684	657	693	664	98.7	99.0
世田谷区	813	736	877	820	92.7	89.7
渋谷区	521	543	204	199	254.6	272.4
中野区	289	286	315	310	91.9	92.0
杉並区	480	439	550	523	87.4	84.1
豊島区	423	378	285	233	148.6	162.3
北区	322	307	336	330	95.8	93.0
荒川区	192	184	203	191	94.3	96.3
板橋区	494	456	536	508	92.1	89.9
練馬区	588	531	716	644	82.1	82.4
足立区	609	539	683	623	89.1	86.6
葛飾区	376	343	443	425	85.0	80.7
江戸川区	571	535	679	654	84.1	81.8

（注）平成17年は年齢「不詳」を除く。

大阪府大阪市の昼夜間人口比率の最高は中央区の591.9，最低は鶴見区の88.6

大阪府大阪市について区別に昼間人口をみると，中央区が46万6千人と最も多く，次いで，北区が38万3千人，淀川区が22万2千人などとなっている。

昼夜間人口比率をみると，中央区が591.9と最も高く，次いで，北区が346.7，西区が213.9などとなっており，15区が100を上回っている。一方，鶴見区が88.6と最も低く，次いで，東住吉区が89.8，城東区が90.4などとなっており，これらを含む9区が100を下回っている。

(図11-12，図11-13，表11-12)

図 11-12 昼夜間人口比率—大阪府大阪市 (平成22年)

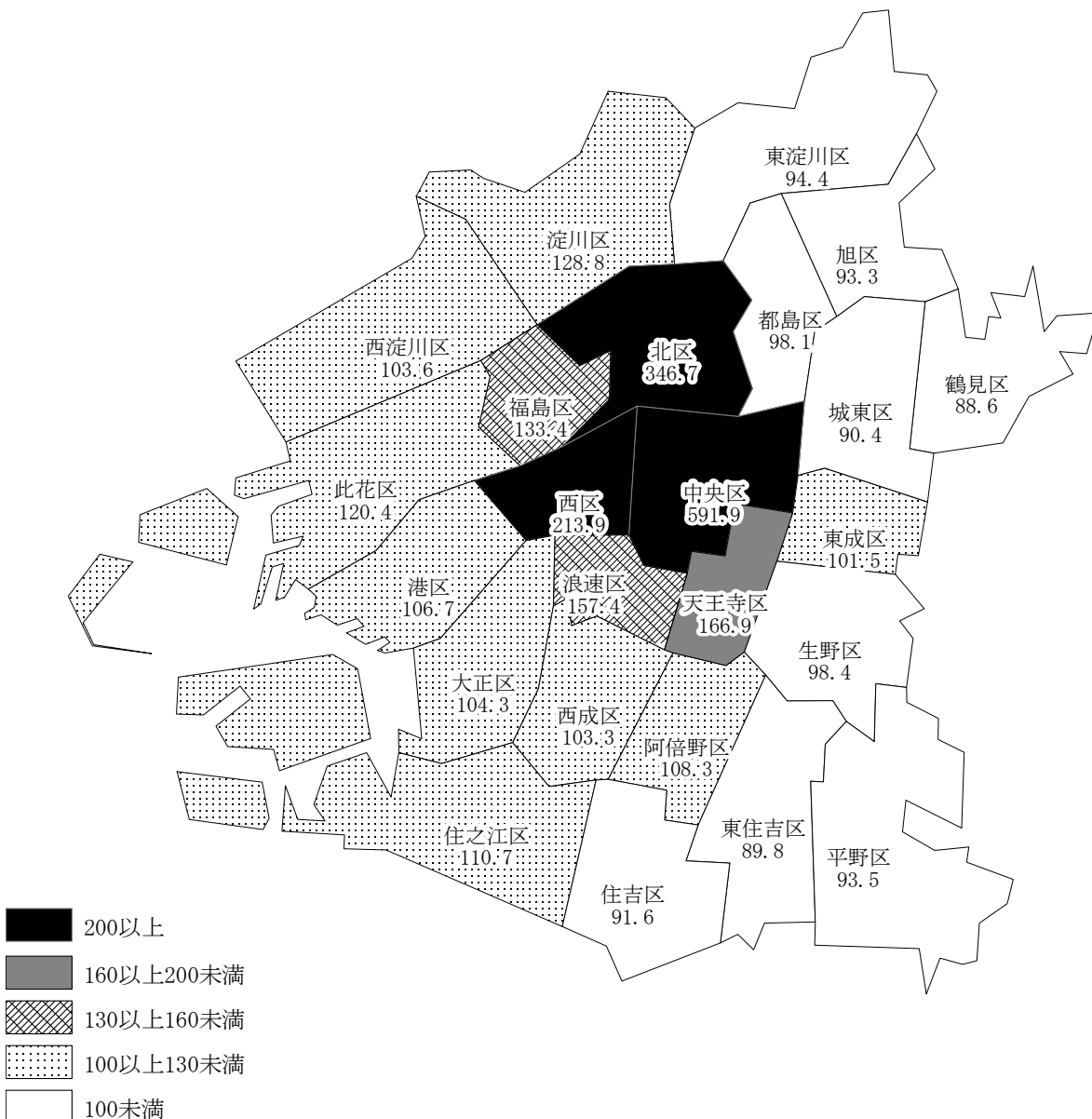


図 11-13 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率—大阪府大阪市（平成 22 年）

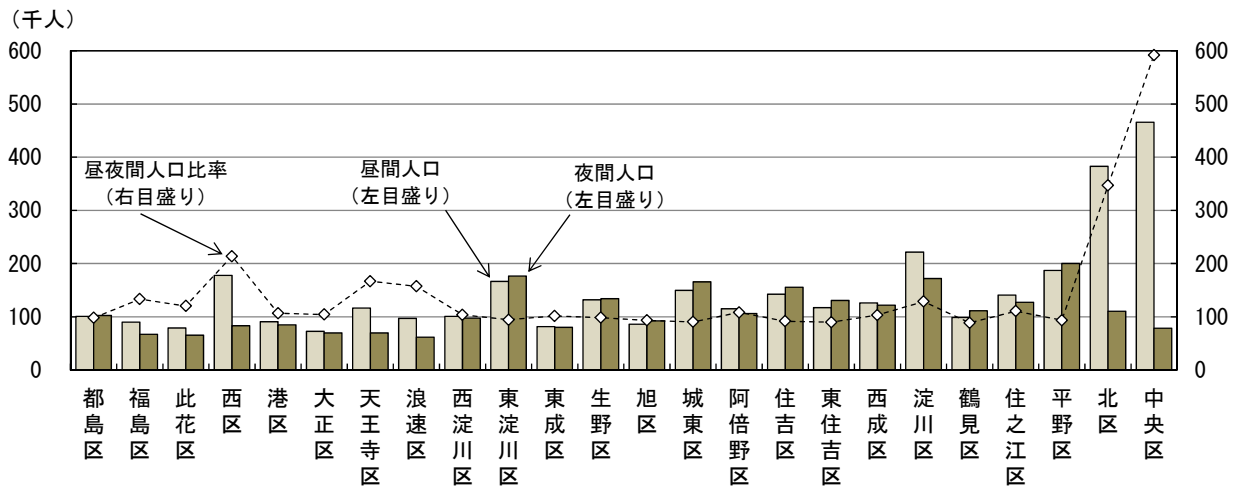


表 11-12 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率—大阪府大阪市（平成 17 年、22 年）

区	昼間人口 (千人)		夜間人口 (千人)		昼夜間人口比率	
	平成22年	17年	22年	17年	22年	17年
大阪市	3,539	3,582	2,665	2,595	132.8	138.0
都島区	101	100	103	100	98.1	100.3
福島区	90	87	67	60	133.4	143.9
此花区	79	76	66	64	120.4	119.6
西区	178	170	83	62	213.9	273.3
港区	91	89	85	83	106.7	107.2
大正区	73	74	70	73	104.3	101.1
天王寺区	116	121	70	64	166.9	188.6
浪速区	97	94	62	51	157.4	183.4
西淀川区	101	100	98	95	103.6	104.9
東淀川区	167	164	177	178	94.4	92.3
東成区	81	80	80	78	101.5	102.5
生野区	132	129	134	134	98.4	96.1
旭区	86	86	92	95	93.3	90.6
城東区	150	143	166	160	90.4	89.4
阿倍野区	115	116	106	107	108.3	108.5
住吉区	142	140	156	158	91.6	88.5
東住吉区	117	118	131	134	89.8	88.2
西成区	126	131	122	130	103.3	100.2
淀川区	222	220	172	168	128.8	131.4
鶴見区	99	93	111	107	88.6	86.8
住之江区	141	141	127	130	110.7	107.8
平野区	187	185	200	200	93.5	92.6
北区	383	418	110	97	346.7	430.4
中央区	466	508	79	67	591.9	761.8

(注) 平成17年は年齢「不詳」を除く。

愛知県名古屋市の昼夜間人口比率の最高は中区の379.1，最低は緑区の80.0

愛知県名古屋市について区別に昼間人口をみると，中区が29万7千人と最も多く，次いで，中村区が22万6千人，中川区が19万9千人などとなっている。

昼夜間人口比率をみると，中区が379.1と最も高く，次いで，中村区が166.2，東区が162.0などとなっており，これらを含む10区が100を上回っている。一方，緑区が80.0と最も低く，次いで，守山区が86.9，名東区が86.9などとなっており，これらを含む6区が100を下回っている。

(図11-14，図11-15，表11-13)

図11-14 昼夜間人口比率—愛知県名古屋市（平成22年）

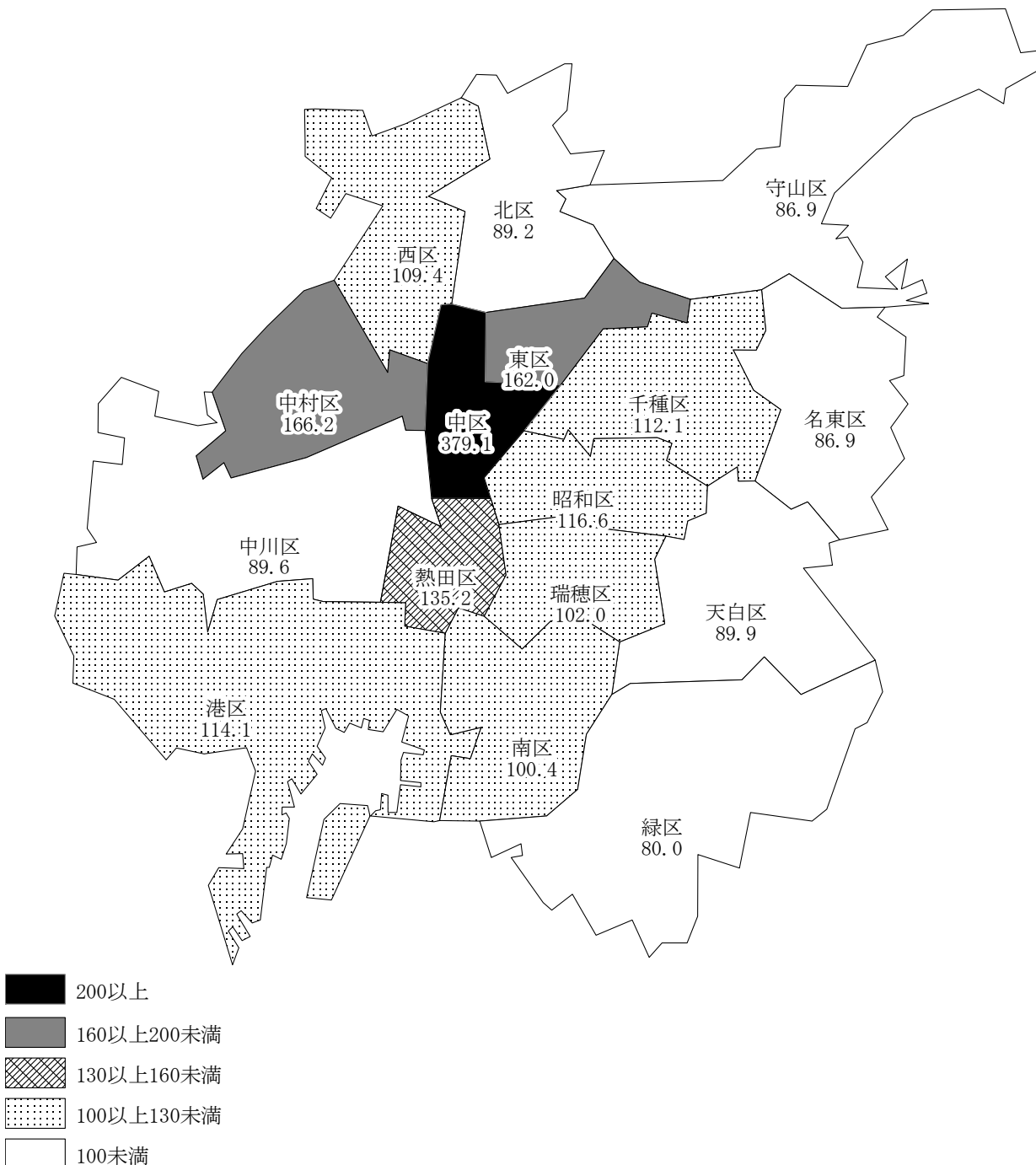


図 11-15 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率—愛知県名古屋市（平成 22 年）

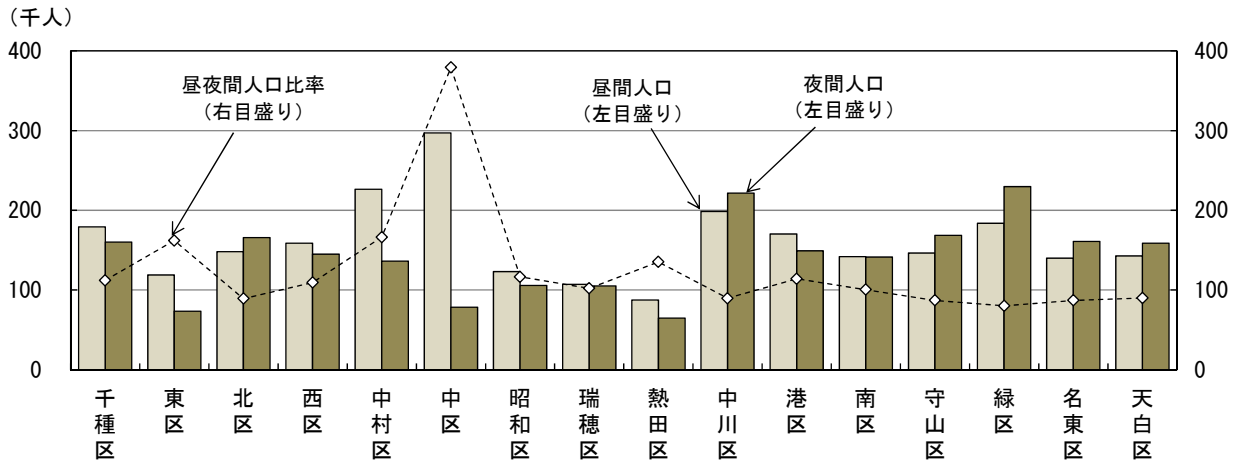


表 11-13 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率—愛知県名古屋市（平成 17 年、22 年）

区	昼間人口（千人）		夜間人口（千人）		昼夜間人口比率	
	平成22年	17年	22年	17年	22年	17年
名古屋市	2,569	2,516	2,264	2,194	113.5	114.7
千種区	179	171	160	153	112.1	111.7
東区	119	117	73	68	162.0	170.9
北区	148	147	166	166	89.2	88.6
西区	159	145	145	138	109.4	105.2
中村区	226	234	136	133	166.2	176.3
中区	297	325	78	66	379.1	494.6
昭和区	123	117	106	104	116.6	113.0
瑞穂区	107	102	105	102	102.0	99.5
熱田区	88	88	65	63	135.2	138.3
中川区	199	191	222	215	89.6	89.0
港区	170	169	149	152	114.1	111.6
南区	142	141	141	143	100.4	98.8
守山区	146	135	169	161	86.9	83.6
緑区	184	166	230	216	80.0	76.7
名東区	140	132	161	156	86.9	84.2
天白区	143	136	159	158	89.9	86.5

（注）平成17年は年齢「不詳」を除く。

<市区町村別>

昼夜間人口比率は20大都市の区で高い

市区町村別に昼間人口をみると、東京都港区が88万6千人と最も多くなっており、次いで千代田区が81万9千人、世田谷区が81万3千人と東京都の3区で80万人以上となっている。また、この3区の夜間人口はそれぞれ20万5千人、4万7千人、87万7千人となっており、昼夜間人口比率がそれぞれ432.0、1738.8、92.7となっている。

昼夜間人口比率をみると、東京都千代田区（1738.8）が最も高く、次いで大阪市中央区（591.9）、東京都中央区（493.6）などとなっており、昼夜間人口比率の高い市区町村の上位は20大都市の区でほぼ占められている。

20大都市の区以外では愛知県飛島村が290.9と最も高く、次いで栃木県芳賀町（180.1）、京都府久御山町（174.8）などとなっている。

一方、宮城県七ヶ浜町が65.0と最も低く、次いで、大阪府豊能町（65.8）、千葉県栄町（69.2）などとなっている。（表11-14、表11-15）

表11-14 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率—上位15市区町村(平成22年)

昼間人口の多い市区町村				
順位	市区町村	昼間人口 (人)	夜間人口 (人)	昼夜間 人口比率
1	東京都 港区	886,173	205,131	432.0
2	東京都 千代田区	819,247	47,115	1738.8
3	東京都 世田谷区	812,810	877,138	92.7
4	熊本県 熊本市	757,093	734,474	103.1
5	東京都 新宿区	750,120	326,309	229.9
6	東京都 大田区	684,451	693,373	98.7
7	鹿児島県 鹿児島市	614,759	605,846	101.5
8	東京都 足立区	608,632	683,426	89.1
9	東京都 中央区	605,926	122,762	493.6
10	東京都 練馬区	588,243	716,124	82.1
11	東京都 八王子市	578,039	580,053	99.7
12	東京都 江戸川区	570,877	678,967	84.1
13	東京都 江東区	548,976	460,819	119.1
14	兵庫県 姫路市	542,402	536,270	101.1
15	栃木県 宇都宮市	535,317	511,739	104.6

表11-15 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率—上位15市区町村(平成22年)

昼夜間人口比率の高い市区町村					昼夜間人口比率の低い市区町村				
順位	市区町村	昼間人口 (人)	夜間人口 (人)	昼夜間 人口比率	順位	市区町村	昼間人口 (人)	夜間人口 (人)	昼夜間 人口比率
1	東京都 千代田区	819,247	47,115	1738.8	1	宮城県 七ヶ浜町	13,278	20,416	65.0
2	大阪府 大阪市 中央区	465,786	78,687	591.9	2	大阪府 豊能町	14,471	21,989	65.8
3	東京都 中央区	605,926	122,762	493.6	3	千葉県 栄町	15,632	22,580	69.2
4	東京都 港区	886,173	205,131	432.0	4	茨城県 利根町	12,238	17,473	70.0
5	愛知県 名古屋市 中区	297,039	78,353	379.1	5	山形県 中山町	8,689	12,015	72.3
6	大阪府 大阪市 北区	382,705	110,392	346.7	6	奈良県 平群町	14,287	19,727	72.4
7	愛知県 飛島村	13,161	4,525	290.9	7	埼玉県 富士見市	77,311	106,736	72.4
8	東京都 渋谷区	520,698	204,492	254.6	8	山梨県 西桂町	3,295	4,541	72.6
9	東京都 新宿区	750,120	326,309	229.9	9	青森県 階上町	10,749	14,699	73.1
10	兵庫県 神戸市 中央区	276,972	126,393	219.1	10	神奈川県 真鶴町	6,008	8,212	73.2
11	大阪府 大阪市 西区	177,691	83,058	213.9	11	神奈川県 二宮町	21,907	29,522	74.2
12	栃木県 芳賀町	28,875	16,030	180.1	12	神奈川県 川崎市 宮前区	162,710	218,867	74.3
13	神奈川県 横浜市 西区	170,450	94,867	179.7	13	千葉県 大網白里町	37,342	50,113	74.5
14	広島県 広島市 中区	229,879	130,482	176.2	14	千葉県 流山市	122,308	163,984	74.6
15	京都府 久御山町	27,825	15,914	174.8	15	山形県 山辺町	11,330	15,139	74.8

20大都市の多くは、少なくとも一つの区の昼夜間人口比率が100を上回っている

20大都市の昼夜間人口比率をみると、東京都特別区部、大阪府大阪市、愛知県名古屋市など13市で100を上回る一方、これらの市の近隣にある市の一部（7市）において100を下回っている。

20大都市内の区別に昼夜間人口比率をみると、最も高い区は県庁・府庁や市役所の所在地又は鉄道のターミナル駅が所在する区となっている。なお、市全体で昼夜間人口比率が100を下回る7市のうち昼夜間人口比率が最も高い区をみると、さいたま市大宮区（138.7）、千葉市中央区（125.3）、横浜市西区（179.7）、川崎市川崎区（119.8）、浜松市中区（107.5）及び堺市堺区（116.3）が100を上回っており、一部の区では流入人口が上回っている。一方、相模原市は最も高い中央区で93.3となっており、市内の全ての区で流出人口が流入人口より多くなっている。

各20大都市内で昼夜間人口比率が最も低い区は、全てが100を下回っており、特に川崎市宮前区（74.3）、さいたま市南区（75.5）、横浜市青葉区（77.2）など都心部のベッドタウンとなっている区が低くなっている。（表11-16）

表 11-16 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率—20 大都市(平成 22 年)

20大都市	昼夜間人口比率	昼夜間人口比率が最も高い区			昼夜間人口比率が最も低い区				
		区名	昼間人口 (千人)	夜間人口 (千人)	昼夜間 人口比率	区名	昼間人口 (千人)	夜間人口 (千人)	昼夜間 人口比率
札幌市	100.6	中央区	373	220	169.3	手稲区	116	140	82.8
仙台市	107.3	青葉区	397	291	136.4	太白区	185	221	83.7
さいたま市	92.8	大宮区	150	108	138.7	南区	132	175	75.5
千葉市	97.5	中央区	250	199	125.3	花見川区	143	181	78.9
特別区部	130.9	千代田区	819	47	1738.8	練馬区	588	716	82.1
横浜市	91.5	西区	170	95	179.7	青葉区	235	304	77.2
川崎市	89.5	川崎区	260	217	119.8	宮前区	163	219	74.3
相模原市	87.9	中央区	249	267	93.3	南区	228	274	83.0
新潟市	101.8	中央区	239	181	132.1	秋葉区	67	77	87.1
静岡市	103.3	葵区	279	255	109.2	清水区	244	248	98.4
浜松市	99.7	中区	256	238	107.5	西区	102	114	89.7
名古屋市	113.5	中区	297	78	379.1	緑区	184	230	80.0
京都市	108.5	下京区	136	79	171.1	西京区	125	153	81.4
大阪市	132.8	中央区	466	79	591.9	鶴見区	99	111	88.6
堺市	94.4	堺区	173	149	116.3	東区	68	85	79.8
神戸市	102.6	中央区	277	126	219.1	垂水区	171	220	77.8
岡山市	104.2	北区	361	303	119.4	中区	129	142	90.7
広島市	102.1	中区	230	130	176.2	佐伯区	113	135	83.3
北九州市	102.7	小倉北区	228	182	125.4	小倉南区	192	215	89.6
福岡市	111.9	博多区	366	213	172.2	南区	217	247	88.0